

文楽を愉しむ

平成30年度
岡崎市文楽事業

ユネスコ無形文化遺産

人形浄瑠璃

文楽

平成30年

10.6 土

昼

の部

開演 13:30

開場 13:00

上演時間 約2時間45分
(休憩15分)

夜の部

開演 18:00

開場 17:30

上演時間 約2時間20分
(休憩15分)

よし つね せん ほんざくら
義経千本桜

しん ほん とうた さいもん
新版歌祭文

のぞきむら
野崎村の段

よし つね せん ほんざくら
義経千本桜

みちゆき はつねのたひ
道行初音旅

主な出演者

〈天 夫〉豊竹呂太夫

〈三味線〉鶴澤 清治(人間国宝)

〈入 形〉桐竹勘十郎

※公演内容も出演者も1部変更となる
場合もございますのでご了承ください。

義経千本桜
写真 青木信二



新版歌祭文

会場 岡崎市せきれいホール

入場料
全席
指定

昼夜各 S席 3,500円 A席 3,000円

昼夜セット券 数量限定 S席 6,000円 A席 5,000円

小学生～大学生(A席のみ)1,000円▶ ※せきれいホールのみ販売します。
※学生証を持参してください。

文楽の楽しみ方

〈文楽イベント〉文楽講座

平成30年 8月21日(火)

開講/19時(開場18時30分)

会場/甲山会館(岡崎市民会館内)

内容/人形浄瑠璃文楽座の
技芸員による文楽の解説等

募集定員 ● 150名程度

参加料 ● 1人 500円

(当日会場でお支払いください)

文楽公演【昼の部】【夜の部】同時購入で
講座無料招待券 贈呈

※講座無料招待券は、せきれいホール、市民会館のみ
取り扱っております。

応募方法 ● 往復はがきに下記内容を全て
記入の上、お申し込みください。

往信用 (表) 〒444-0022 岡崎市朝日町3-36-5
岡崎市せきれいホール「文楽講座」係
(裏) ①参加希望人数 ②代表者の住所・氏名・電話番号
③応募者全員の氏名(代表者に○印/5人まで)

返信用 (表) 郵便番号・住所・代表者氏名 (受付期間)
(裏) 空白にしておいてください。 7/7(土)～8/10(金) 必着

※個人情報保護のため、本講座以外に使用することはありません。

チケット
発売

7月7日(土)
午前9時から

※発売初日のみ、おひとり様4枚までとします。
※発売日の整理券の配布は8:30から行います。
※電話予約は発売日の13:00から受付いたします。

※未就学児の入場はご遠慮ください。
※予約、郵送の取扱い等については各販売所により
異なりますのでお問合せください。
※字幕装置がございます。席によっては見えにくい場合
がございますので、あらかじめご了承ください。

□ チケット取扱場所

◆ 岡崎市せきれいホール ☎0564-25-0511

◆ 岡崎市民会館 ☎0564-21-9121

◆ 岡崎市シビックセンター ☎0564-72-5111

チケットぴあ Pコード【485-971】 ☎0570-02-9999 (受付用)

※セブンイレブン、ファミリーマート、サークルK・サンクス

※チケットぴあでは昼夜セット券のお取り扱いがございません。

◆ 富士プレイガイド ☎0564-55-2662

◆ 岡崎呉服協同組合 ☎0564-23-7065

【お問合せ】 岡崎市せきれいホール ☎0564-25-0511 FAX 0564-25-0512
〒444-0022 岡崎市朝日町3丁目36番地5

主催/岡崎市・岡崎市せきれいホール指定管理者一般社団法人岡崎パブリックサービス・公益財団法人文楽協会
後援/文化庁 助成/芸術文化振興基金・朝日新聞文化財団

交通案内 [名鉄バス] 東岡崎駅(バスターミナル)から市民病院行約10分 バス停「徳王神社前」下車、南へ約100m
【徒歩】 東岡崎駅より約25分(約1.2km) 【駐車場】 市役所東立体駐車場

昼の部

【解説】

あらすじを中心に 豊竹希太夫

義経千本桜

よしつねせんぼんざくら

椎の木の段

【人形役割】

口 豊竹巨太夫
鶴澤清丈

権太伴善太
吉田 簀之
権太女房小仙
桐竹亀次
主馬小金吾武里
吉田 簀紫郎

奥 豊竹呂勢太夫
鶴澤清治

六代若
桐竹勘次郎
若葉の内侍
吉田 勘彌
いがみの権太
桐竹勘十郎
娘お里
豊松清十郎
弥左衛門女房
桐竹勘壽

すしやの段

前 豊竹呂太夫
鶴澤清介

吉田 玉志
吉田 玉輝
梶原平三景時
吉田 玉助

後 竹本津駒太夫
鶴澤 藤蔵

すしや弥左衛門
大ぜい
村の役人
大ぜい
軍兵
大ぜい

望月太明藏社中

本心は、維盛を助け、出家させることだったと判明。妻子を犠牲にする必要などなかった。権太は、今の死に様も悪の報いだと悟り、これまでの悪事を悔いて絶命。維盛は髪を切り、家族と別れ、高野へ。

人形浄瑠璃の全盛期、延享四年(1747)、竹本座初演。竹田出雲(二代)、三好松洛、並木千柳による五段続きの時代物で、『菅原伝授手習鑑』『仮名手本忠臣蔵』とともに浄瑠璃三大傑作に数えられています。

昼の部でご覧いただくのは、全篇の山場となる三段目。『平家物語』に見られる維盛の物語―源平の合戦の最中、戦場を離れ、都に残した妻子を恋慕いつつ、高野で出家し、那智の沖で入水―を踏まえ、「すしや」では、現在も奈良県吉野郡下市町で営業されている「つるべすし弥助」を舞台としています。

夜の部

【解説】

あらすじを中心に 豊竹巨太夫

義経千本桜

よしつねせんぼんざくら

道行初音旅

【人形役割】

静御前 豊竹呂勢太夫
桐竹勘十郎
狐忠信 豊竹希太夫
ツレ 豊竹巨太夫
鶴澤清志郎
鶴澤清丈
鶴澤友之助

静御前
桐竹勘十郎
狐忠信
吉田 玉助

新版歌祭文

しんぼんうたざいもん

野崎村の段

中 豊竹希太夫
鶴澤清丈

【人形役割】
娘おみつ
豊松清十郎
手代小助
吉田 簀一郎
丁稚久松
吉田 清五郎

前 竹本三輪太夫
竹澤 團吾

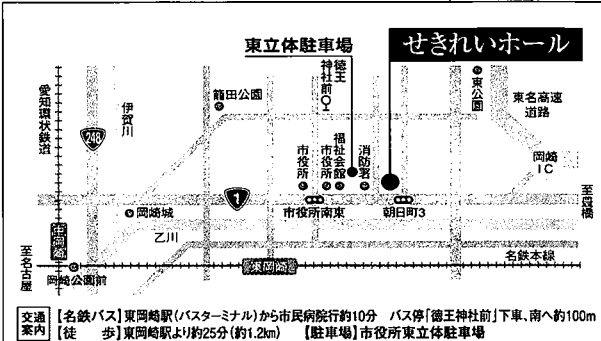
親久作
吉田 文司
下女およし
吉田 簀太郎

後 竹本文字久太夫
竹澤 團七
鶴澤 友之助

娘お染
吉田 勘彌
駕籠屋
吉田 玉彦
桐竹 勘介
母お勝
桐竹 勘壽
船頭
桐竹 紋秀

望月太明藏社中

大和の源九郎狐の言い伝えを取り入れた四段目の華麗な道行。道行の最高傑作といわれ、聞きどころ、見どころ、たっぷりです。平家を滅ぼしたのち、謀反を疑われ、頼朝に追われる義経は、吉野山に潜伏。それを知った愛妾静御前が、義経の家来佐藤忠信を供とし、吉野をめざして大和路を旅します。満開の桜の中、義経を思つて静が打つ鼓「初音」は、大昔、雨乞いのために雌雄の狐の革で作られ、義経が法皇から賜わり、静に形見として与えたもの。実は、この忠信は鼓の子、つまり狐。狐独特の表現や早替わりもお楽しみください。



交通案内 【名鉄バス】東岡崎駅(バスターミナル)から市民病院院約10分 バス停(徳王神社前)下車、南へ約100m 【徒歩】東岡崎駅より約25分(約1.2km) 【駐車場】市役所東立体駐車場

大店の娘お染と丁稚久松の、許されない主従の恋。しかも、お染には結婚が決まり、久松には、養い親久作の妻の連れ子、おみつという許婚がいました。この恋の行く末を心配し、また孝行なおみつの幸せを願う久作は、店で失敗した久松が実家に戻されたのを幸い、おみつと祝言をあげさせることに。待ちに待った祝言が突然決まり、おみつは大喜び。ところが、久松を追つてお染が…。あくまでも恋を貫こうとするお染。その強い思いに打たれ、一度は恋を諦めた久松も、一緒にいなければならない死ぬとの意を再び固めます。久作は、道ならぬ恋を思い切るよう説得。涙ながらに別れを約束する二人。しかし、おみつは、心中の覚悟を見抜き、二人を添わせるため、自身の幸せを諦めて尼に…。安永九年(1780)、竹本座初演。お染・久松の心中(1710)を題材とし、新たな悲恋を盛り込んだ、近松半二の上二巻の世話物で、上の巻の「野崎村」は文楽の代表的な演目のひとつ。お染の美しいクドキヤ、お染と久松が船と駕籠とに別れて野崎村(大阪府大東市)から大坂へと去って行く段切の、華やかで躍動的な三味線は、大変有名です。